

あの日、窓の外を見ていた僕へ。

学校に行きたくなかった僕が、
自分の歩幅を誇れるまで

Akuto

誰が何と言おうと、自分の人生の物語は、自分で描いていい。

遠回りも、後悔も、すべてが君だけの経験になる。
もし今、立ち止まっているのなら——
一緒に、自分を探しにいこう。

君ならできる。
一緒に、自分を
探していこう。

あの日、窓の外を見ていた僕へ。

Akuto

あの頃、僕はいつも
教室の窓の外を見ていた——。

学校に行きたくない日もあった。
でも、行きたい日もあった。
友達と笑い合い、夢中になった時間も、
かけがえのない思い出として、今も心に残っている。

この本は、そんな僕が、
迷い、つまずき、何度も立ち止まりながら、
それでも少しずつ自分の歩幅で進んできた、
等身大の物語です。

「自分らしく生きたい」と
思っているすべての人へ。